

1 題材 手づくり楽器で演奏しよう

2 目標

- 手づくり楽器を用いて即興的に表現する活動に進んで取り組むことができる。
- 図形楽譜を作成し、旋律やリズムの重ね方を工夫して即興的に表現することができる。
- 手づくり楽器を用い、自分の出したい音をイメージして出すことができる。
- 自分たちの演奏と他のグループの演奏を聴き比べ、それぞれのよさや表現の違いを感じ取ることができる。

3 指導観

- 本題材は、手づくり楽器を用いて、旋律やリズムの重ね方を工夫して即興的に表現する活動に関心をもち、自分たちで作成した図形楽譜を即興的に表現する活動を通して、音楽をつくりだす喜びや、旋律やリズムが重なり合う響きのおもしろさを味わうことをねらいとして設定したものである。

高学年は、多様な音楽に対する関心や楽器の演奏の仕方への意欲が高まってくる時期である。また、この時期は、これまでの音楽経験から得た音楽表現など、いろいろな音楽表現から音楽づくりの発想を得て、即興的に表現するようにすることが大切である。

そこで、手づくり楽器を用いて、テーマに合わせて思いや意図をもち、音の出し方やリズムの重ね方などの工夫をしながら即興的に表現する学習活動を設定した。

手づくり楽器をつくる活動を取り入れることは、用いる素材による音色の違いに気づき、作る過程で素材や組み合わせ方を工夫しながら自分自身で楽器をつくりだす喜びを味わい、豊かな発想や表現力を高めるのに適している。

図形楽譜を作成する活動を取り入れ、音や音の重ね方、リズムを図形の形や色で表すことで、音のイメージをより具体的に捉えることができる。また、自分の思いのままに図形の形や色をかくことは、創造力を高め、音楽づくりの可能性を拓けるうえで効果的である。

このような学習を行うことは、音楽づくりのための発想をもち、即興的に表現する能力を高めるうえで大変意義がある。

- 子どもはこれまでに、「思いをこめて歌おう」や「いろいろなひびきを味わおう」の題材で思いや意図をもって歌い方を工夫したり、器楽合奏の活動を通してお互いの音を聴いて演奏したりすることができるようになってきている。しかし、楽曲全体の構想を考え、見通しをもって音楽をつくり、演奏していくことはこれからの学習によるところが大きい。

本学級の子どもは、明るく活発であり、授業中は積極的に発表し、意欲的に学習に取り組む様子が多く見られる。音楽の学習においては、歌を歌ったり、リコーダーや打楽器を使って合奏したりすることが好きな子どもが多い。しかし、音楽要素や仕組みに着目して、音楽づくりをしたり表現を工夫したりする経験は少ない。

- そこで、本題材の指導にあたっては、様子に合った楽器の組み合わせ方や奏法を工夫しながら音楽づくりをすることで、自分たちの思いをもって音楽づくりをするおもしろさに気づくことができるようにしたい。

まず導入では、「ガムラン」を鑑賞し、これからの活動に関心をもち、つくりたい楽器をつくる活動では、持ち寄った材料を組み合わせたり、つくる過程で音を出したりしながら、思い思いにつくりたい楽器をつくることができるようにしたい。

展開では、テーマから連想する言葉を書き出した後、図形楽譜を作成することで、音のイメージを表現することができるようにしたい。図形楽譜を作成する際には、全体の構想を考えながら強弱や楽器の組み合わせ方を工夫するようにする。また、作成した図形楽譜を用いて演奏することで、旋律やリズムが重なり合う響きのおもしろさを味わうことができるようにしたい。

まとめでは、発表会を行うことで、自分たちで音楽をつくることのおもしろさ、それぞれのグループのよさや表現の違いを味わうことができるようにする。

4 教材

- 「ガムラン」
- 「Artikulation」

作曲：Ligeti

5 指導計画（全7時間）

- | | |
|------------------------------------|---------|
| (1) 手づくり楽器をつくる。 _____ | 2時間 |
| (2) 図形楽譜を見て、音のイメージをもつ。 _____ | 1時間(本時) |
| (3) 図形楽譜を作成し、手づくり楽器を用いて演奏する。 _____ | 3時間 |
| (4) 発表会をする。 _____ | 1時間 |

6 本時の目標

- 図形楽譜に沿って、音の出し方や楽器の組み合わせ方を工夫して演奏することができる。

7 指導過程

学習活動及び学習内容	指導上の留意点	資料・準備
(1) 本時学習について話し合う。 ○ 即興演奏の鑑賞 ○ 3択クイズ ○ 本時学習のめあて さまざまな音の出し方を工夫しよう。	○ 図形楽譜を見ながら演奏を聴くことで、演奏と図形楽譜の音のイメージとを結びつけることができるようにする。 ○ 3種類の図形楽譜を用意し、演奏に合う楽譜はどれかを当てるクイズを行い、図形楽譜を用いて演奏することに関心をもつことができるようにする。 ○ 子どものつぶやきをめあてに生かすことで意欲をもって本時の学習に取り組むことができるようにする。	・ CD 「Artikulation」 ・ 図形楽譜 「Artikulation」
(2) 学習の進め方について話し合う。 ○ 学習の進め方を確認 ・ 図形楽譜に合わせて練習 ・ 話し合い(グループ) ・ 発表(全体)	○ 学習の進め方を確認することで、子どもが見通しをもって本時の学習に取り組むことができるようにする。	
(3) 手づくり楽器を演奏する。 ○ 教師の作成した図形楽譜に合わせて演奏 ○ 感想を発表	○ 図形楽譜の図形の色、形や全体の雰囲気に注目させ、楽器の組み合わせ方や音の出し方を考えながら演奏することができるようにする。 ○ 色々な鳴らし方（奏法や強弱のつけ方）をしている子どもを取り上げ、一つの楽器でも多様な鳴らし方をすることができることを伝えるようにする。 ○ 演奏後に、どんな音のイメージをもって、音を出したのかを発表させることによって、あらかじめ考えた音のイメージと自分の出した音とを結び付けるようにする。	・ 教師作成の図形楽譜 ・ 手づくり楽器
(4) 与えられたテーマをもとに、どんな図形楽譜を作成したいかグループで話し合う。	○ 図形楽譜を作成する前に、テーマから連想される言葉をワークシートに書き出すことで、音のイメージを膨らませることができるようにする。 ○ 音のイメージがなかなか思い浮かばない子どもに対しては、「あかるい」「きらきら」などの言葉を提示したり、思い浮かんでいる子どもの意見を紹介したりするようにする。 ○ 話し合いが早く終わったグループは、図形楽譜の作成に取り組むように伝える。	・ ワークシート ・ 画用紙
(5) 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	○ グループで話し合ったことを全体場で発表し、子どもの意見を賞賛することで、次時からの活動に自信	

○ 本時学習の振り返り	をもって取り組むことができるようにする。	
○ 次時への見通し	○ 次時では、図形楽譜を作成することを伝え、次時への見通しを持つことができるようにする。	